

交流のひろば

情報をお寄せください。市役所広報広聴課 890-6642へ。

日・伊両国間の懸け橋に



市国際交流員に新規採用
バーバラ・ベルチアさん(32)
荒牧町

先月四日付で市国際交流員に採用された。出身はイタリアのベネチア。日本語・英語に堪能なのはもちろんのこと、ドイツとフランス語もできる。
「小さいころから語学の勉強が好きでした。大学では日本語

と日本文学を専攻。さまざまな国の文化に対して興味があった中で、ヨーロッパとは大きく違う日本について学んでみたかったです」

「これまでも、京都外大に一月間、東北大に二年間の留学経験がある。」

「学問だけでなく、日本の日常生活の中に入って、いろいろ体験できました。パチンコに熱中する人、人前にもかかわらぬお酒で酔ってしまう人、今でもちよつと理解できないことがあります。みんな親切で優しい人ばかりですね」

本市に訪れてから、まだ日も

浅いが、自転車で通勤し元気に働いている。通訳や翻訳、外国人相談窓口、英語版広報「前橋瓦版」の編集発行など、国際交流員は人と接する仕事が多い。
「前橋はきれいで静かなまちですね。社会人として日本で暮らすのは初めてだけでも、イタリアをはじめ世界の国々との交流を進めるために、一生懸命やりたいと思っています。敬語など、もつと日本語を学んで市民の皆さんと触れ合いを深めたいわ。そして、生活に慣れたら、水泳やスポーツクラブで汗を流して、体力づくりも兼ねては」と、流ちょうな日本語で語った。



伝統の踊り 稲荷藤節が復活

上増田町・奈良孝美48

七月二十六日、町内の納涼祭が盛大に行われました。今年で二十五回を数え、年々盛り上がりを見せています。今年の上増田町出身の故久川藤太郎さんが考案したという盆踊り唄「稲荷藤節」を復活させ、泉沢町保存

会をはじめ、町内外から大勢が参加し、大正時代に生まれたこの稲荷藤節を踊りました。市指定重要無形文化財にもかかわらず、町内に稲荷藤節を知る人が少なくなっているのはとても残念なこと。これからも町の貴重な財産として残したいと思っています。

このほか、今年はテレビタレントの踊りをまねたものなど、時代を反映した出し物を取り入れ、みんなが楽しめる充実した催しばかりでした。

この納涼祭を通して、地域社会とのつながりの大切さを実感しました。また来年の納涼祭を期待しています。



まちのニュース



江田町

150年の歴史 お地蔵さま

江田町では八月十五日、江戸時代から伝わる行事「お地蔵さま」を行いました。子どもの健全育成と無病息災を願って、毎年お盆に実施。小学生六十人が参加しました。

朝六時、子どもたちが町公民館に集合。例年は地蔵を納めたお堂を台車に乗せて移動しますが、あいにくの雨のため、地蔵本体を女の子が交互に持ち、おさい銭をもらいながら町内を一周しました。

富沢進自治会長は、「子どもたちが力を合わせることで、友情が生まれ、交流の輪が広がります。次の世代に引き継ぎたいですね」と話していました。